

* 特別公開「雛と雛道具」展示作品リスト *

NO.	名称	数量	年代	所蔵
弥千代の雛と婚礼調度				
1	やちよ ひな 弥千代の雛	1対	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
2	やちよ ひなどうぐ 弥千代の雛道具	85件	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
3	やちよ かご 弥千代の駕籠	1棹	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
旧家の雛				
4	ひなだんかざ 雛段飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(加納基弘氏寄贈)
5	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵
6	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(森嶋美代子氏寄贈)
7	こきんびな 古今雛	1対	江戸～明治時代	個人蔵
8	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(青柳和子氏寄贈)
9	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	明治33年(1900年)	本館蔵(山本高嗣氏寄贈)
10	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(尾賀信子氏寄贈)
11	まめにんぎょう・だいどころどうぐ 豆人形・台所道具	1揃	大正～昭和時代	本館蔵(山田米子氏寄贈)
12	みつおりにんぎょう 三折人形	2躯	大正～昭和時代前期	本館蔵(若山夏江氏寄贈)
13	いちまつにんぎょう 市松人形	1揃	昭和時代初期	本館蔵(平居圭子氏寄贈)

写真解説

*番号は作品リストの番号と一致します。

1 弥千代の雛 一对

男雛 高 30.6cm 女雛 高 24.7cm

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

雛段などに立てかけて飾る立雛たちびなという種類の雛です。衣装は紙製で、室町時代頃の形式の装束となっており、男雛は小袖と袴はかまを着け、女雛は小袖に細帯を締めています。まるで団子に目鼻をつけたかのような顔は、次郎左衛門雛という雛の形式に則ったもの。あどけない顔立ちが愛らしい一对です。

この雛は、近年、経年劣化が進んで展示できない状態となりましたが、今年度、念願の修理を実施することができました。今回の展示は、修理後初のお披露目となるものです。



2 弥千代の雛道具 一揃 (写真はその一部)

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

貝桶かいおけや三棚さんたな、挟箱はさみばこなど85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模してあつらえられました。井伊家の家紋である橘紋たちばなもんと共に、根引きの小松、笹竹、梅枝うめがえの模様が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。



弥千代の雛道具のうち 角盥つのだら 盥たらい 湯桶ゆとう 櫛台くしだい 手拭掛てぬぐいかけ 鏡台・柄鏡きょうだい えかがみ

洗面や化粧のための道具のミニチュアです。角盥は半球形の盥に4本の角がついたもの。二人で角を持って運び、うがいや手洗いに使います。盥と湯桶は揃いで用いるもので、湯桶の湯水を盥に注いで使います。

櫛台ぼんがた てんばん ひきだしは盆形の天板と抽斗を組み合わせた作りで、抽斗には小物を整理して納め、必要な時に天板にのせて使用しました。手拭掛には手拭いを掛け、鏡台に据えた柄鏡で身だしなみを調べました。いずれも黒漆塗きんまきえに金蒔絵で橘紋と松竹梅の模様が表わされており、ミニチュアながら丁寧に作り込まれています。



3 弥千代の駕籠 1 棹

縦82.3cm 横112.2cm 高106.5cm

江戸時代後期

本館蔵（井伊家伝来資料）

弥千代の婚礼調度として調えられた駕籠です。黒漆塗に井伊家の家紋の橘紋と、松平家の家紋の葵紋が、松竹梅の模様とともに金蒔絵で表わされています。随所に飾り金具が付けられ、内側には鮮やかな彩色で花鳥画が描かれています。

なお、この駕籠のミニチュアである雛道具の駕籠も展示いたします。実物と見比べることで、ミニチュアの精巧さをじっくりご覧いただくことができます。



5 古今雛 一対

男雛 高 44.5cm 女雛 高 43.4cm

江戸～明治時代

本館蔵

男雛と女雛の一対。公家風の衣装をまとった内裏雛の一種で、江戸時代明和年間（1764～1772）に江戸の人形師原舟月が創始した古今雛と呼ばれるものです。造作は細やかに整っており、目元や口元、髪の毛の生際などの細部を描き出す柔らかな筆遣いは、制作者の確かな技量を感じさせます。



9 雛御殿飾り 一揃

高 64.5cm

明治33年(1900年)

本館蔵（山本高嗣氏寄贈）

紫宸殿を模した御殿の中に男雛と女雛、官女を、御殿の周りには隨身や仕丁などを配した雛御殿飾りの一揃です。雛御殿飾りは、江戸時代の末頃から盛んに行われるようになり、明治時代に広く普及しました。

この御殿飾りは、明治33年(1900年)3月に生まれた千代という女性の初節句のために、京都で制作されたものです。御殿は大振り（はつぜつく）で、飾り金具をあしらった葺戸（しとみど）や房飾り（みす）の付いた御簾（みす）など、細部まで丁寧に作り込まれています。明治期の雛飾りを今に伝える貴重な優品です。

